

I 研修の基本構想

1 研修主題 「自己の生き方を考え、主体的に学ぶ生徒の育成」

－キャリア教育の充実を目指して－

2 研修主題設定の理由

(1) 学校の教育目標とのかかわり

- ・ 道徳の時間はもちろんのこと、全教育活動において、互いを認め合い、思いやる気持ちなど豊かな心の育成を図りたい。
- ・ 自己の将来を見通すために、中高一貫教育をはじめとした地域人材を積極的に活用するとともに、少人数指導やTTなど、きめ細かい指導を行い、基礎・基本の定着を図り、確かな学力を身に付けさせたい。

(2) 家庭・地域の実態や願いとのかかわり

- ・ 「片中文化の日」や「地域ふれあい書き初め大会」などの学校行事には、村の文化諸団体を始めとした地域の方々が、積極的に参加・協力してくれる。
- ・ 中高一貫教育の取組等により、連携高校への理解が深まり、連携高校へ進学する生徒の割合も高まるなど、進路への意識も変化が見られる。
- ・ 1日公開参観日に毎回参加する保護者がいたり、学校への要望が多く寄せられたりするなど、教育に対する関心が高い家庭がある一方、思春期の生徒への指導が不足する家庭が見られるなど、家庭教育の差が大きい。保護者への啓発が必要である。
- ・ 職業体験学習についての意義や計画・取り組みを親子で話し合い、将来の職業選択を考える機会としたい。

(3) 生徒の実態とのかかわり

- ・ 部活動や学校行事等、興味・関心の高いものに対しては、意欲的に取り組む生徒が多い。このような積極的な行動や意欲を普段の学校生活や学習等、気づきを大切にされた指導を通して自己課題を解決する取組につなげたい。
- ・ 家庭学習の習慣が身に付いていなかったり、家庭学習の量が不足している生徒がみられるので、定期テストなどの直前だけでなく、毎日自ら学習に取り組む習慣を身に付けさせたい。
- ・ あいさつ運動、朝読書等の取組により、あいさつができたり落ち着いて生活できる生徒が多くなっている。他とのかかわりに関しては、周りの状況等考えなかったり配慮が足りなかったりするトラブルも見られる。道徳的実践力を高める必要がある。
- ・ 将来の夢や職業に向けて努力している生徒がいる一方、目的意識が不足したり、自らの意思表示ができなかったりする生徒も多い。体験的な学習を通して、自らの生き方を考えられるようにする必要がある。

(4) 教職員の指導の在り方とのかかわり

- ・生徒一人一人の基礎学力の定着を図るための指導の在り方について、一人一授業の校内研究授業・授業研究会も併せて行い、指導力の向上を図りたい。また、指導と評価の一体化を意識した授業改善の見通しを持つ必要がある。
- ・連携型中高一貫教育の趣旨を全職員で確認し、指導計画や実践内容についての研修の場を増やし、総合的な学習の時間、学級活動の時間等の進路指導の在り方を明らかにする必要がある。
- ・道徳性検査等を活用した道徳の時間、全教育活動を通しての道徳的实践力を身に付けさせる指導など、道徳教育の充実を図る必要がある。

3 研修のねらい

発達段階に応じたキャリアを形成させていくことにより、生徒に学ぶこと、働くこと、生きることの尊さを実感させ、望ましい勤労観、職業観を育み、社会人・職業人として自立するための基礎を培う。そのために、進路学習、各教科、道徳等の指導の在り方を、実践を通して明らかにしていくことにより自己の生き方を考え、主体的に学ぶ生徒の育成を図る。

4 研修内容・方法

- ・各学年学級で12時間行う進路学習や総合的な学習の時間での生き方教育等、中高6年間を見通したものと結びつけ、進路カード等を用いた系統的な指導を行う。村教委やキャリア・スタート・ウィーク実行委員会と連携しながら、2年生の職業体験学習を連続5日間(30時間)実施するための計画立案を行い、担当学年を中心に全校態勢で取り組む。
- ・各学年ごとに計画的な道徳の時間の授業実践とともに、日常的な道徳的实践力をめざし、豊かな心の育成と学校生活の向上につなげる。
- ・各種検査(NRT、パスカード、道徳性検査等)の分析を行い、その結果を生かした指導計画の改善等中・長期的な指導と評価の一体化を図る。また、評価項目による評価、それに伴う補充的・発展的指導など、一単位時間における指導と評価の一体化を意識した授業改善の見通しを持ち、一人一授業の校内研究授業等で授業実践を行う。

5 研修組織

組織	構成員	研修推進上の役割や主な研修内容
推進委員会	○研修主任、教務主任、学社連携主任、進路指導主事、道徳主任、教科指導改善部長、学年代表	研修計画立案、全体会に提案する内容の協議、研修の課題の焦点化等
全体会	全職員	研修内容の確認
進路学習充実部会	○野上、阿部、金子、尾崎	学級活動、総合学習における進路指導計画の見直しと実践、職業体験学習の

		立案・実施・評価、パスカルの分析
道徳教育推進部会	○渡辺、白井、関谷、秋元	年間指導計画・学級における指導計画の見直し・授業実践、道徳性検査の分析
教科指導改善部会	○古田島、高橋、手島、林、飯塚 三好	学力検査の分析、指導と評価の一体化の推進
学年部会	各学年所属職員	道徳・学級活動の授業改善の推進
国語・社会部会	○秋元 高橋 尾崎	各教科の授業改善の推進
数学・理科部会	○古田島 金子 関谷 野上	各教科の授業改善の推進
英語部会	○渡辺 手島 林	各教科の授業改善の推進
技能教科部会	○阿部 白井 飯塚 三好	各教科の授業改善の推進

6 授業研究等の経過

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業検討会 講 は、講義

月日	内容		研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)
4. 9	第1回推進委員会		・校内研修の今年度の原案作成
4.16	第1回全体会		・校内研修の今年度の方向性の検討 ・研修計画書の検討
5. 7	第2回全体会		・研究授業の実実施計画等の確認 ・指導案の形式、研修計画書についての確認
6. 4	指導と評価の一体化について (第3回全体会)	講 尾崎教諭	・評価に関する研修 ・信頼性・客観性を高める評価の在り方の理解が深められた。
6.13	指導主事訪問A(第4回全体会)		・校内研修が多岐にわたっているが、学力向上を柱にしていくことの指導を受けた。 ・一人一授業の機会を大切にして、指導と評価の一体化の視点で研究授業を実施することを確認できた。 ・「ねらい・学習活動・評価項目」の整合性を高め、授業改善を図ることを目指す。
〃	道徳 「母への小遣い」 (A訪問)	授 白井教諭	・豊かな心を持つ生徒の育成について ・資料「菊次郎とさき」を活用し、自ら選んだ題材で教材化ができ、家族との愛情・連帯への意識が高められた。
6.25	第5回全体会		・保健指導研修
6.26	技術・家庭 「タイピング」	授 飯塚教諭	・生徒への支援について ・尾瀬高校経営情報コースの教師とのTT、生徒の補助的な役割で、個に応じたきめ細かな授業が展開できた。

6. 27	保健体育 「バレーボール」	授 阿部教諭	<ul style="list-style-type: none"> 個人技能の向上と、個人・チームの課題の発見について 学習活動に対する指示を明確に行い、学習カードを活用して授業展開を行ったので生徒が何をすればよいか理解して主体的にボール運動に取り組み、課題発見につながった。
7. 9	第6回全体会		<ul style="list-style-type: none"> 指導主事訪問Aの指導事項の確認 授業研究会の持ち方の提案
8. 27	第7回全体会		<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導研修
8. 29	社会 「現代の民主主義」	授 秋元教諭	<ul style="list-style-type: none"> 選挙の仕組みを理解させるためのシミュレーション作業について 作業内容の指示が明確で、シミュレーションが的確に行われたことで、ねらいとする選挙制度の理解を深めることができた。
9. 3	第2回推進委員会		<ul style="list-style-type: none"> 指導主事訪問Aの指導事項の確認と、教育課程等の学校課題の解決策について検討 今後の研修の方向性について
9. 6	道徳 「体育祭」	授 金子教諭	<ul style="list-style-type: none"> ねらいとする価値に近づくための資料の提示について 題材がタイムリーで生徒達も考えやすく、体育祭に向けて、学級で団結することの大切さや実践への意欲が高められた。
9. 13	道徳 「お仕事レポーターセレクション」	授 古田島教諭	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動の重視、家庭・地域との連携、共に考える道徳の実践について 友達の親の働く姿の発表から働く親の素晴らしさ、大変さを感じ取った「キャリア・スタート・ウィーク」の予備体験「お仕事レポーター」を生かした。
9. 25	第8回全体会		<ul style="list-style-type: none"> 校内研修経過報告書の検討 指導主事訪問Bの指導案検討
〃	国語 「古典を知って、ものの見方を広げよう」①	指 高橋教諭	<ul style="list-style-type: none"> おもに本時の展開について 学習活動の流れがスムーズでなく、ねらいが一本化されていなかったことの課題を解決できた。
〃	学級活動 「職業体験学習でのマイチャレンジ」①	指 関谷教諭	<ul style="list-style-type: none"> ねらいにせまる資料提示の在り方について 本時のねらい、職業体験学習に対する課題を高めるためのゲストティーチャーの有効的な活用方法について検討できた。
9. 26	国語 「古典に親し	授 尾崎・高橋教諭(TT)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が意欲的に読むという主体的な学びについて

	む」		・リズム感を持たせた音読の繰り返し、具体物を利用することによって、生徒が意欲的に取り組み、情景の理解も深まった。
10. 1	第9回全体会		・指導主事訪問Bの指導案検討
〃	国語 「古典を知って、ものの見方を広げよう」②	指 高橋教諭	・ねらいと評価項目について ・授業の視点・本時のねらいと評価項目の整合性を持たせることができた。
〃	学級活動 「職業体験学習でのマイチャレンジ」②	指 関谷教諭	・学級活動の評価について ・事前・事後指導や、他教科等との関連、学級活動の評価規準・評価項目の在り方を明確にできた。
10. 9	指導主事訪問B(第10回全体会)		・どの教科も「主体的に学ぶ生徒の育成」に、ねらいを焦点化していくことが確認できた。 ・一単位時間の指導と評価の一体化の理解を深め、評価項目を視点とする授業研究・日々の授業の検証を通して授業改善を図る。 ・キャリア・スタート・ウィークの指定を生かし、今後全体計画の作成などキャリア教育の充実を図る。
〃	国語 「古典を知って、ものの見方を広げよう」③	指 高橋教諭	・授業の視点：形態を工夫し、繰り返し音読することは、古文の表現に慣れ、読むための豊かな言語能力（歴史的仮名遣いや古語の意味・古文独特の表現）を身に付けることに有効であろうか。 ・音読練習は、生徒の実態を把握し、「生徒にどのような力をつけさせるか」というねらいを明確にした上で、形態を工夫すれば、学習効果を一層高めることが出来ることが明らかになった。
〃	学級活動 「職業体験学習でのマイチャレンジ」③	指 関谷教諭	・授業の視点：ゲストティーチャーの話を聞くなどして、職業体験学習での課題を考えさせたことは、具体的な目標を持って当日を迎えるための事前学習として有効であったか。 ・事前打合せで十分本時のねらいを理解してもらえたので、有効なゲストティーチャーの活用ができた。
10. 15	第11回全体会		・B訪問の指導事項の確認 ・今後の研修計画の提案
10. 18	理科	授 野上・高橋	・授業の視点：電気分解装置を用いて電気エネ

	「エネルギー」	(尾瀬高)教諭 T T <中高一貫>	ルギーを取り出す実験を取り入れたことは、化学変化と電気エネルギーの出入りについて関心を広げ、燃料電池が環境にやさしい電気であることを理解するために有効であったか ・燃料電池のしくみが電気分解の逆の反応を利用していることが分かり、環境に負担のかからない電気エネルギーであることを実験を通して理解できた。
10. 18	選択英語 「現在完了形」 経験の用法	指 渡辺・林・ 小林(尾瀬高) 教諭T T <中高一貫>	・授業の視点：T Tや少人数の授業を行うことは、生徒が質問しやすい雰囲気を作り、一人一回は発言する機会を設けるのに有効であったか。 ・尾瀬高校からの教員一名を毎週迎え、T T及び少人数の授業ができ、個に応じたきめ細かな授業が展開できた。
11. 19	英語 「疑問詞who ～」について	指 手島・林教 諭T T	・授業の視点：有名人の写真を使い、その人物に関するヒントを数文づくり、その人物が誰であるかをwho・・・?を用いて行うゲームは有効であったか。 ・whoの文構造と辞書のひき方の練習ができ、生き生きとした活動ができた。
11. 26	第12回全体会		・研究紀要「校内研修の歩み」「片品の教育」についての提案
1. 21	第13回全体会		・紀要作成の確認と、三部会研修のまとめ
1. 28	第14回全体会		・教科部会研修のまとめ
2. 4	第15回全体会		・C R Tの結果分析と改善策の作成
3. 17	第16回全体会		・紀要の完成 ・来年度の研修の方向性(主題、副主題等)についての検討

※ その他の研修

月日	区分	講師	内容(上段)・成果(下段)
6. 25	保健指導研修 (第5回全体会)	外部講師(東 消防署員)	・心肺蘇生法の講習 ・緊急時の救急法の仕方やA E Dの使用方法を全職員が習得できた。
8. 27	生徒指導研修 (第7回全体会)	高桑靖雄スク ールカウンセ ラー	・生徒理解に関する研修 ・問題行動を起こす生徒の事例から見えてくる子どもの心の理解を深めた。 ・大人の接し方が変われば、生徒の行動様式や態度も変わるが分かった。